

令和2年度 生光学園中学校入学式 校長式辞 <48期生>

本日、令和2年度生光学園中学校の入学式を挙行することができますことは、私共に
とって大きな慶びであり衷心よりお礼申し上げます。また、新入生の保護者の皆様、
ご家族の皆様方には、お子様のご入学、誠におめでとうございます。心よりお慶び
申し上げます。申すまでもなく、教育は家庭と学校が一体となってはじめてその成果が
表れるものであります。私どもは建学の精神に則り、お子様の成長を願い様々な教育
活動を展開してまいりますので、保護者の皆様方にはご理解と、暖かいご支援・ご協力
をお願い申し上げます。

さて、入学許可の呼名で元気な返事をして下さった26名の新入生の皆さん、ご入学
おめでとうございます。今日からいよいよ新しい学校生活が始まりますが、今は緊張と
不安と期待が交錯した複雑な気持ちだと思います。しかし先輩たち、また私たち教職員
一同、しっかりと準備を整え皆さんの入学を心待ちにしておりましたので、どうぞ安心
して、学園生活に慣れ、一日もはやく“生光ファミリー”の一員となって欲しいと
願います。

今日は皆さんに、入学にあたり心にとどめておいて欲しいことをひとつだけ、お話し
します。それは“生光”という名前の由来についてです。皆さんの名前はご両親或いは
おじいさんやおばあさんたちが、特別な思いや期待を込めてつけてくださったのでは
ないでしょうか。“生光”という校名も同様です。“生光”という意味をしっかりと
理解することは、これから始まる学校生活の指針となり、生光学園で学ぶ意義をより

強く^{じかく}自覚することができると考えます。

70年余り前、学園の創立者^{みまのぼる} 美馬昇前学園長は、戦争のために^{りょうがん}両眼失明の状態に立ちいたりしました。しかし、^よ廃人同様の身ながら、世をうらまず、残された^{いのち}生命を社会の為に役立てたいと決心いたしました。そうして自己に関する^{いっさい}一切を捨て自分が生きることの^{きゆうきよく}究極を、^た他を生かすことに見い出した時から、少しずつ^{きせき}奇跡が、起こりはじめました。多くの^{がんかい}眼科医から見放された^め眼に視力が戻りはじめたのです。“光が生まれる” “^{せいこう}生光”の命名は、^{めいめい}かくなされました。この“^{せいこう}生光”という言葉に込められた創立者の^{ねが}願いを、^{おも}思いを 3年間あるいは6年間かけて、しっかりと^{たいとく}体得して行って欲しい と^{ねが}願います。

学園ができて73年の^{さいげつ}歳月が過ぎました。そして中学校ができて48年、美馬昇先生のこの精神は、先輩たちから皆さん方へと、^{みやくみやく}脈々と、そして^{たし}確かに、受け継がれていきますことを^{きたい}期待しております。どうぞこの自然^{ゆた}豊かなすばらしい環境の中で、新しく始まる学校生活に感謝と希望を持って^{わたし}私たちと共に^{しょうじん}精進してまいりましょう。皆さんの健康と活躍を心より^{きねん}祈念して ^{しきじ}式辞 といたします。

令和2年4月9日



生光学園中学校校長 佐近 隆義